



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2025.12.10 号

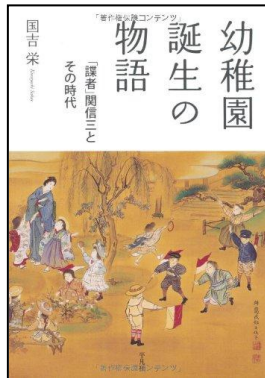
夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

日本の幼稚園はこうして始まった！

『幼稚園誕生の物語』（国吉栄著）には、日本での幼稚園誕生の裏話が書かれています。そもそも「幼稚園」とは 1837 年にドイツで生まれた教育施設です。

それからわずか 40 年後の明治 9 年（1875）には日本初の幼稚園が完成します。東京女子師範学校



東京女子師範学校附属幼稚園



**明治9年（1875）
定員150名の大規模園の誕生**

附属幼稚園です。現在の国立お茶の水女子大学附属幼稚園にあたります。

ところでこの園は「定員 150 名」という超大規模園。これは世界の幼児教育の世界ではありえないことでした。幼稚園はどここの国でも、せいぜい定員 20～30 名の小規模園。しかもピアノを使った「一斉保育」。これもまた日本のオリジナルです。

日本オリジナルの幼児教育 （大規模・ピアノ・一斉保育）

ところで…、

無理やり欧米列強から開国させられた明治政府は、不平等条約に苦しみます。対等の条約を結ぶには、政治・軍事・経済とともに、文化的にも認められねばなりません。

そこで明治政府は、あの有名な「岩倉使節団」を欧米に派遣します。明治 4 年のことです。

明治4年（1872）岩倉使節団



明治9：東京女子師範学校附属幼稚園 （現在のお茶の水女子大学附属幼稚園）

当時の政府要人の半数が、一気に洋行するなど、無謀とも思える行動です。それこそ、船が沈んだら国の大損害。しかしそれくらい決死の覚悟だったのでしょう。

使節団の中に、文部省の役人の田中不二麿（ふじまろ）がいました。この田中が、日本に西洋の幼児教育を導入したキーマンです。

**文部省
田中不二麿**



前述したように、「幼稚園」はフレーベルがドイツで創りました。子どもの「内」に宿る神性をい

フレーベル

**1837年
幼稚園を創る**



かにして伸ばすか。それがフレーベル思想の中核でした。

フレーベルの思想は諸外国に広がります。イギリス、アメリカに幼稚園が作られ始めます。この世界的にも新しい学校である「幼稚園」をいち早く導入すること。それが日本の国際的地位向上にも役立つに違いない、と。

そして田中不二麿は、イギリスの幼稚園視察に向かいます。しかし、ここで手違いが起こります。

田中が訪問し学んだのは幼稚園ではなく、「幼児学校」でした。これはイギリスの実業家ロバート・オーウェンが作ったものです。

イギリスの実業家 ロバート・オーウェン

幼児学校
定員60~70名

フレーベルの創った
幼稚園と勘違い？



当時のイギリスは産業革命の真最中。小さな子どもたちも工場に動員されていました。それを憐れんだオーウェンは、10歳未満児を労働から解放し、工場に付設した「幼児学校」に通わせました。それは、**フレーベルの幼稚園の思想を参考に作った「学校」**だったのです。

玩具を使った遊びは息抜き程度で、算数などの授業をしていました。定員は60~70名と大規模。これを田中は「幼稚園」と勘違いしました。そうして誕生したのが「東京女子師範学校附設幼稚園」だったのです。

さらにイギリスやアメリカの幼稚園書の唱歌遊戯を導入する際に問題が発生します。日本人には西洋の音階「ドレミ」が理解できなかったのです！

当時の文部省の指導書にはこのような記述があります。

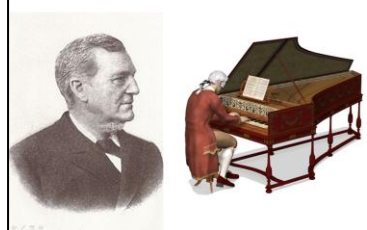
「唱歌にとって楽器は車と車輪のように両方があって始めて用をなすものである。楽器がないと全く音楽の効果がない」

楽器がないと全く音楽の効果がない！

そうして「ピアノ」が導入されます。アメリカ人の音楽教師メーソンがその役を担いました。

こうして、日本オリジナルの幼児教育が完成しました。東京女子師範学校附設幼稚園から全国にこのスタイルが波及。「大規模なピアノ一斉保育」の幼稚園がたくさん作られていきました。この保育スタイルは、集団行動の好きな日本人に向いていたのでしょう。…

ルーサー・ホワティン・メーソン



教育には2つの流れがあります。「外」から教えるか、「内」から引き出すか。今まで見てきた「一斉保育」は「外」から子どもを育むものといえます。



それに対して私たち夏見台幼稚園・保育園は、「内」から子どもの興味・関心を引き出す保育です。もちろん一斉保育を行う場面もありますが、ピアノで子どもを動かすような保育ではありません。

子どもを「外」から教えるやり方の極限が「体罰」です。集団で一斉に行動すると、はみ出す子どもも出てきます。注意する、またはみ出す。また注意する、またはみ出す、その結果…

今でも時々体罰のニュースが流れます。あってはならないことです。事件の背景にはいろいろな事情がありましょう。しかし体罰を引き起こすような園では、子どもを「内」から引き出すという発想はなかったと思います。今一度、フレーベルが提唱した本来の保育観・子ども観を明確にすべきだと私は考えます。 (終)